

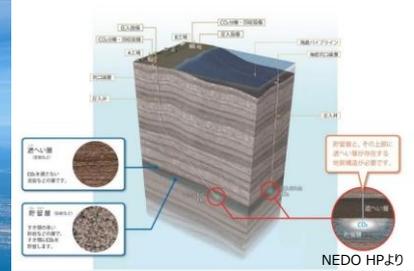
# 2025年度 第1回 ゼロエミッション火力ウェビナー

液化CO<sub>2</sub>輸送船 "えくすくうる"



環境省HPより

## ～CCSの現状と今後について～



苫小牧港沖の航空写真（写真：Photo ACより）

主催 一般社団法人火力原子力発電技術協会

### 募集概要

### 申込方法

対象：弊会 会員・非会員問わず  
 募集定員：200名（リモート）  
 定員になり次第、締め切りとなります。  
 受講料：無料  
 開催日：2025年6月10日（火）  
 申込締切：2025年6月6日（金）  
 会場：WEBのみ（Teams）

当協会ホームページ（<https://www.tenpes.or.jp>）の「講座・講演会」からお申込みください。  
 ※非会員の方は、別途、非会員登録が必要となります。ホームページよりお手続き願います。  
 ※資料の配布はございません。  
 ※ウェビナー受講の方は前日までにご案内するメールに記載のTeamsのURLに接続してください。なお、当日、接続できないとの問合せが散見されますので、前述とは別にリハ用Team接続サイトをご準備いたします。事前接続確認にご利用ください。この接続サイトは6/3～6/5の期間接続可能となるように準備いたします。詳細につきましては、別途、ホームページにてお知らせいたします。  
 ※ウェビナー終了後には、受講者のみなさまにアンケートをお送りいたします。よりよいウェビナーに向けて準備を進めてまいりますので、ご協力の程、よろしく願いたします。

6月10日（火）	題名	内容紹介	講師
13:00～13:10	全般概要のご紹介	本日のウェビナー開始にあたり、全体概要についてご紹介します。	早稲田大学 理工学術院 教授 中垣 隆雄
13:10～13:50	第7次エネルギー基本計画の概要 ～火力発電の役割～	第7次エネルギー基本計画が閣議決定され、原子力・再生エネ・火力発電の割合が明記されました。併せて、火力発電の役割についても明記されましたので、その内容について解説します。また、今回より水素・アンモニアに加え、選択肢としてCCSも大きく取り上げられたことから、その必要性と意義についてご紹介します。	東京大学 生産技術研究所 研究顧問 金子 祥三
		質疑応答	
13:50～14:30	CCSの現状と今後について	CCSは、脱炭素社会実現の重要な技術であると認識され、欧米では実用化が進んでいます。我国でも昨年5月にCCS事業法が成立し、CCSの社会実装を目標に準備が進んでいます。ここでは世界の動向と将来についてご紹介します。	公益財団法人 深田地質研究所 顧問 京都大学 名誉教授 松岡 俊文
		質疑応答	
14:30～15:10	苫小牧実証試験におけるモニタリング	苫小牧におけるCCS大規模実証試験について、現在実施中のモニタリングを中心にご紹介するとともに、将来の社会実装を見据えたあるべきモニタリングに係る検討結果を併せてご紹介します。	日本CCS調査株式会社 貯留技術部長 萩原 利幸
		質疑応答	
15:10～15:30	休憩		
15:30～16:10	NEDOプロジェクト「CO <sub>2</sub> 船舶輸送に関する技術開発および実証試験」のご紹介	2021年度に開始したNEDOプロジェクト「CO <sub>2</sub> 船舶輸送に関する技術開発および実証試験」の概要、国内外における取組状況、社会実装に向けた課題等についてご紹介します。	一般財団法人 エンジニアリング協会 技術部 研究主幹 河野 巧
		質疑応答	
16:10～16:50	CCS海外実証（Longship PJ） ～世界最大規模のCCS～	海外のCCS実証状況を把握するため、当工業会は調査団をノルウェーに派遣し、今夏より稼働を開始するLongshipプロジェクトについて調査しました。今回は、プロジェクトの概要や特徴、参画企業との意見交換で得られたCCSに関する有益な知見についてご紹介します。	一般社団法人 日本環境衛生施設工業会 技術委員会副委員長 松本 和正
		質疑応答	
16:50～17:00	全般質疑応答		

お問い合わせ先

（一社）火力原子力発電技術協会 技術部 <ゼロエミッション火力ウェビナー 事務局>  
 TEL：03-3769-3095 FAX：03-3769-3093 E-mail：eng@tenpes.or.jp

2025年6月10日（火）2025年度 第1回 ゼロエミッション火力ウェビナー 講師プロフィール

題 名	講師(敬称略)	プロフィール
全般概要のご紹介	早稲田大学 理工学術院 教授 中垣 隆雄	1992年 株式会社東芝 総合研究所 入社。新発電システムの研究開発に従事。 2004年 博士（工学）取得。 2007年 東芝退社。早稲田大学理学工学部 創造理工学部 総合機械工学科教授。 技術士（機械部門）、日本機械学会（フェロー）、エネルギー総合研究所 理事、ACC研究会会長、METIカーボンリサイクルロードマップ、CCS長期ロードマップ検討会委員。 環境省 環境配慮型CCS事業、CO2資源化事業、GHG算定方法検討会委員。 NEDO 苫小牧CCS実証試験、CO2輸送に係わる課題検討会委員 他、採択委員、CCU事業評価委員、事業推進委員など多数。 特許庁 GX特許出願技術動向調査検討会委員。 NITE スマート保安プロモーション委員会委員長。 その他 日本学術会議・特任連携委員、RITE・科学技術諮問委員、火原協調査研究事業戦略部会委員・JIS改訂委員等を歴任。
第7次エネルギー基本計画の概要 ～火力発電の役割～	東京大学 生産技術研究所 研究顧問 金子 祥三	三菱重工業で火力発電プラントの設計に従事する傍ら、低NOxバーナー、脱硝装置、燃料電池、石炭ガス化などの新技術開発も担当。本社ボイラ技術部長、取締役原動機副事業本部長を歴任後、2001年同社退社。2001～2008年クリーンコールパワー研究所代表取締役副社長として、石炭ガス化複合発電IGCC250MWの設計・建設・運転を統括。2008～2015年東京大学生産技術研究所特任教授兼エネルギー工学連携研究センター副センター長。現在、同所研究顧問。
CCSの現状と今後について	公益財団法人 深田地質研究所 顧問 京都大学 名誉教授 松岡 俊文	石油資源の開発や生産に係る技術開発に従事し、地下構造の可視化技術分野を中心に研究を進めて来た。JST、JICA、ADBなどの支援を得て、インドネシア、バンドン工科大学及びブルタミナ石油とCCUS構想を立ち上げた。経産省や環境省が行っているCCS関連事業の委員会委員を歴任。
苫小牧実証試験におけるモニタリング	日本CCS調査株式会社 貯留技術部長 萩原 利幸	1984年石油資源開発(株)入社。主に国内外の石油と天然ガスの開発業務に携わるほか、LNG基地の建設と操業および都市ガス供給などのガス事業を担当する。2020年より日本CCS調査(株)に出向して、貯留技術部長として二酸化炭素の地中貯留とモニタリングに従事中。
NEDOプロジェクト「CO2船舶輸送に関する技術開発および実証試験」のご紹介	一般財団法人 エンジニアリング協会 技術部 研究主幹 河野 巧	1981年鉄鋼会社に入社、製鉄所のエネルギー部において副生ガス、副生油の利用等に関する業務を担当、その後米国留学を経て研究所にてガス分離、燃料電池材料等の研究開発を担当。2021年から本協会にてNEDOプロジェクトに参画し、CO2船舶輸送に関する技術開発と実証に従事中。
CCS海外実証（Longship PJ） ～世界最大規模のCCS～	一般社団法人 日本環境衛生施設工業会 技術委員会副委員長 松本 和正	2003年に株式会社タクマに入社。自治体向け一般廃棄物処理施設の見積計画部門に配属され、主に焼却処理施設の基本設計や見積積算業務を経験。2023年に日本環境衛生施設工業会の技術委員に就任し、世界最大規模のCCS実証プロジェクト「Longship」のCO2貯留地点Northern Lightsでの実証試験視察に参加。現在は副委員長として環境省や各業界団体と共同し、2050年カーボンニュートラルなどへの対応を推進中。

協会ホームページからお申込みいただけます（<https://www.tenpes.or.jp>）

会員ページにログインの上、「講座・講演会」よりお申し込みください。（非会員の方は、非会員登録が必要です）

※参加者情報に入力していただきましたアドレスに、詳細(ウェビナー参加用URL)をお送りしますので必ずご参加される方の登録をお願いいたします。